巻 頭 言

国際教育研究センター紀要創刊に寄せて

学校法人親和学園
理事長　山　根　耕　平

「国際教育研究センター紀要創刊号」が発刊される運びとなりましたこと、学長はじめ、教職員のみなさまに、心よりお慶び申し上げます。私にとりましても、大学（当時は親和女子大学）に勤めて10年目に、現学長はじめ多くの教職員と一緒になって国際交流委員会を立ち上げて以来の長年の夢でした。

思い起こせば、20年近く前に国際交流委員会を立ち上げた主たる理由は、国際交流を教学の基本方針として、大学の国際化を図ること、そして、学生の留学・研修を拡充させ、その国際感覚の醸成に努めること、併せて、教員の国際レベルの研究を促進することでした。以来、海外研修プログラムは拡充の一途をたどり、現在、世界中で20近くのプログラムが実施されています。のべの参加者数は、1,800名を超えています。また、在外学術研究員として留学した教員は、のべ15名になっています。現在では、海外への研究出張等は、日常化しているほど活性化しています。まことに喜ばしい限りです。

ただ、学生の研修についても、そのプログラムの有効性を検証し、さらに改善していく研究体制は構築されてはいません。また、教員の研究も、個人レベルのものがほとんどで大学としての組織的な研究と呼べるレベルのものはあまりないというのが現状です。組織的な研究拠点がないこともその一因だと思っていました。本学にそうした研究拠点を持ちたいというのが、「国際教育研究センター」立ち上げの、そもそもの理由でした。

それから、１年で「研究センター紀要」が発刊されるということで、近いうちに、名実ともに海外の研究者との共同研究の成果も発表されることも期待されます。実際、親和独自の「教員養成プログラム」案が構築されることを期待しています。

さて、この「センター」には国内外の客員研究員の方々が委託されており、親和発の国際的な共同研究の発足が待たれます。今から、次号の発刊を心待ちしています。関係者のみなさまのご活躍を祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。